



vol.

32

2015 Spring

通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌

Fukuoka University of Education Campus Magazine

新職大学院棟



特集1

大学改革

特集2

教員採用試験
最前線!!



豊かな教養と高い専門性をつちかう

福岡教育大学

特集 01

大学 改革

vol.

32

CONTENTS

- 02 特集1
大学改革
- 08 特集2
教員採用試験最前線!!
- 12 福教大NEWS
- 16 授業紹介
行・草書法(服部一啓准教授)
- 17 研究室・講座紹介
岩田耕司研究室／数学教育講座
- 18 サークル紹介
トライアスロン愛好会
書道科書作会
- 19 社会連携 連載第10回
- 24 福教大卒OB・OG
北九州市立浅川小学校教諭
佃 美香さん
- 25 公開講座
- 26 TOPICS
特別支援教育第一教棟の改修工事を行いました。
公式ホームページをリニューアルしました。
表紙モデルの福教大生☆
- 27 キャンパスからの便り

広報誌第30号より、
本学の大学改革について紹介しております。
今号では、教育学部の改組、カリキュラム改革、
大学院改革について紹介いたします。

本学は平成25年12月に公表したミッションで謳ったように、九州地区における広域の拠点大学として、教員養成の機能を強化する集中改革を行っています。

具体的には、平成28年度より、生涯教育3課程(共生社会教育課程、環境教育課程、芸術課程)の廃止を含む学部改組、カリキュラム改革、大学院改革を行う予定ですが、この改革は、現在本学に在学している学生諸君や平成27年度の入学生のみなさんの修学に支障を与えるものではありません。どうぞ安心して、本学での勉学に励んでいただきたいと思います。

本学の改革は、本学を確かで高度な教員養成を行う大学とし、格段に高い教員就職率を実現しようというものです。ついては、改革へのご理解とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

福岡教育大学学長 寺尾 慎一



福岡教育大学教育学部の改組について

本学のミッション実現のため、教員養成3課程の改革を行います。初等教育教員養成課程においては、すべての教科・領域の指導力向上のために、入学試験、カリキュラムおよび指導体制を抜本的に見直します。その入学試験では、これまでの選修制を廃止し、入学定員を一括して前期・後期・推薦の各入学試験により選抜します(ただし幼児教育選修を除く)。指導体制の充実策として、新たに教員組織「教職教育院(50人程度)」を設け、入学者を12クラスに分け、教職教育院の教員が各クラスの担任となり、カリキュラムの策定・実施や点検・改善を日常的に行います。

中等教育教員養成課程では、従前通り各専攻別に教員養成を行います。広域拠点大学としての様相を備えるため必要に応じて、募集定員を増やす専攻もあります。また、特別支援教育教員養成課程では、入学定員を「初等教育部」「中等教育部」に区分して募集し、一層計画的な教員養成にします。これらの改革に伴い、生涯教育3課程は廃止します。

なお、上記の改革に加えて「英語習得院」を創設し、正課外での取組として英語によるコミュニケーション能力の習得を図り、英語が使える小学校教員養成講座や留学対策講座等を開講します。また、学生全員の参加を目指すボランティア活動の充実を図ります。これらの改組により、教職を希望して入学してくる学生の期待に応え、教員としてもつべき実践的指導力を確実に育成する大学となり、教員採用試験の格段の合格を実現します。

改組にかかわる詳細については、文部科学省との協議と国会での審議の下に確定されますので、随時ホームページ等でお知らせいたします。

理事・副学長(企画・教育研究・附属学校担当) 櫻井 孝俊



教育学部の カリキュラム改革について

急速な変化を続ける現代社会において、教員に期待される役割はますます高度化・複雑化しています。教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等から構成される福岡教育大学教員養成の質向上に関する諮問会議の答申「本学の教員養成の質向上に向けた方策について」(平成26年12月22日)では、「今後も公立学校教員の大量退職が続き、教員の需要が高まることが予想され、教育水準を維持・向上するためには、即戦力となり得る人材を養成できるよう教育の質の更なる向上が図られることを期待する。(抜粋)」と、本学に対してこれまで以上に実践力を伴った教員養成を行うことが教育委員会や学校現場から求められています。

また、次期学習指導要領では外国語活動の指導、学校活動全体を通じた思考力等の資質・能力の育成のための指導、及び課題解決型学習等の新たな学びのための指導を適切に行うことが必要になると見込まれ、これらの指導力を養成することも教員養成大学としての本学の喫緊の課題となっています。

このような状況の下、本学では平成28年度より教員養成機能を強化するためのカリキュラム改革を行います。平成25年に公表したミッションに謳ったように、本学は「義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的作用を目指すこと」が求められており、カリキュラムについても「義務教育諸学校の教員を養成する」ことが明記されています。本学が養成する初等中等教育の教員の中でも、特に小学校教員・中学校教員・特別支援学校教員の養成の更なる充実を図る必要があります。

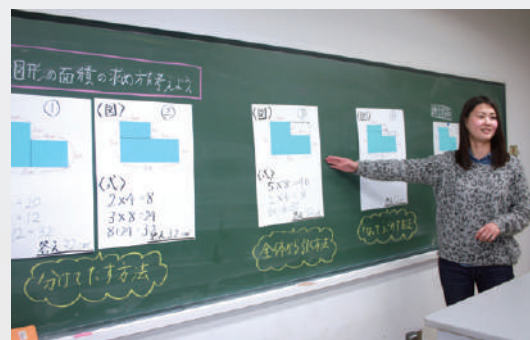
今回のカリキュラム改革は、初等、中等、特別支援教育の各課程において養成する人材に必要な教育内容を有機的なつながりをもって体系的に編成するものです。

初等教育教員養成課程ではこれまでの選修制(ピーク制)に基づくカリキュラムから脱却し、カリキュラム機能を小学校教員としての総合力の育成に集中させ特化(124単位)します。併せて、学生ひとり一人の教職キャリア形成を図る「教職教育院」という新たな指導体制を構築します。これらカリキュラムの機能強化と指導体制の機能強化を図ることによって、小学校現場の今日的課題に対して、また、学校現場の教育困難な状況に直面しても自信を持って立ち向かうことができる「実践的指導力」を十分に備えた教員の養成をめざします。

中等教育教員養成課程についても、初任者段階で、生徒の発達段階を踏まえつつ、教科の各領域、道徳、総合的な学習の時間、特別活動での指導と学習評価、学級経営、給食指導等に関する適切かつ十分な指導が行えるように、また、中学校現場のいじめ、暴力、保護者対応等の今日的課題について適切に対応することができるように教育課程の充実・改善を図り、本学卒業生が学校現場において即戦力のある教員として活躍できるよう養成を行います。さらに、諮問会議の答申に示されているように、教育委員会や教育現場から複数教科を担当できる人材が期待されていることに鑑み、副免として他教科の中二種免許取得を推進します。

特別支援教育教員養成課程においては、その基礎となる小学校教諭・中学校教諭に係る基礎免許としての教育課程上の調整を十分にを行うとともに、諮問会議の答申に示されているように、教育委員会や教育現場から特別支援学校の中学部・高等部を担う教員への需要が高まっていることから、入学定員の見直しに併せて、他大学では養成が困難と考えられる中等教育教員の免許取得者を20名程度輩出できるようカリキュラムを見直します。

以上のように、本学は教員養成に対する社会の要請を真摯に受け止め、その質の向上に尽力して参りますので、ご支援をいただきますようお願いいたします。



副学長(教育組織・カリキュラム担当) 池田 修



「もっと教員としての力を向上させたい」、 「新たに学び直したい」を支援します。

～本学の大学院の改革について～

これからの教員に必要な資質・能力としては、学校種をとわず、

(i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力

(ii) 専門職としての高度な知識・技能

- ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
- ・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題解決型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
- ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

(iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

があげられますが、社会のグローバル化、学校や児童生徒を取り巻く環境の変化などにより、学校教育、教員に求められる資質・能力は高度化、多様化しています。

このため、教員は、教職生活全体を通じて、実践的な指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で知識・技能が陳腐化しないよう継続して学び続けることが重要となっています。

教職を目指して学部4年間を通して学んできたけれど、教壇に実際に立つ前にもう少し実践的な力を身に付けておきたい方、長らく学校現場で頑張ってきたけれど、ここで自分の教職生活を見つめ直し、新たな力を身に付けたい方など、様々な学びのニーズを支援できるよう、本学の大学院には、現在、専門職学位課程(教職大学院)及び修士課程(教育科学専攻)を設けています。

平成28年度からは、下記の方角でさらに改革を進め、各課程で学んだことがより学校現場での活躍につながるようしてまいります。さらに高度な学びの場として博士課程の設置も検討しています。本学の大学院での学びにより、より多くの方が教職生活を充実したものにすることができるよう期待します。

1. 専門職学位課程 (教職大学院)

近年、全国的に教職大学院の設置が進められています。本学の教職大学院では、これまでの修了者がほぼ100%教員として採用されていること、福岡県教育委員会の行う教員採用選考試験に合格した後に教職大学院で学ぶ場合は教員としての採用が1年間延長されるとの措置が設けられていること等にあらわされているとおり、学びの成果が教育委員会、学校関係者から高い評価を得ています。

さらに教育内容、指導体制等の改革を図り、九州の先導的・中核的な教職大学院として、学んだ方が各地域で活躍できるよう努めています。



①身に付けられる資質・能力

学校教育の実践的な課題に取り組む上で発揮できる効果的で多様な指導法等の理解と実践する力、卓越したリーダーシップ、豊かな人間性を身に付けることができるようにします。

●教育実践力開発コース(学部卒業生及び社会人対象)

現職教員としてのスタート段階で身に付けることが望まれる知識・技能の多くを習得し、教育状況を俯瞰する広い専門的視野、学校教育活動で即戦力となる実践的指導力、授業力、学級経営力、人間関係形成能力等を育成していきます。

●生徒指導・教育相談リーダーコース(現職教員対象)

生徒指導・教育相談(特別支援教育)を学校現場で担当する際に望まれる知識・機能の多くを取得し、校内での生徒指導・教育相談・特別支援教育・キャリア教育・学校体制づくりの取組を包括的にリードし、学校内外の教育・福祉関係者及び関係機関をコーディネートして、個々の児童生徒の成長発達を促し、問題行動の予防と全校の教育機能向上をリードする力を育成していきます。

●学校運営リーダーコース(現職教員対象)

教頭、主幹教諭、指導教諭等として身につけることが望まれる知識・技能の多くを取得し、学校が直面する諸課題の多面的な分析と解決に向けた校内研究の推進、教育課程の開発、学校マネジメント、学校・地域の連携の領域について、リーダーとして専門的力量を発揮し、学校全体の教育実践や指導の改善をリードする力を育成していきます。



②入学定員の拡大と学ぶ内容等

入学定員を現在の20名から拡大するとともに、現職教員対象のリーダーコースは、小・中学校教員に加えて、高校教員も積極的に受け入れます。また、各教科に応じた指導力を高めるための科目の充実、修了要件単位を48単位程度に縮減等を行っています。

2.修士課程(教育科学専攻)

①身に付けられる資質・能力

学部卒業生及び現職教員で教育課程編成や授業の充実を目指す方、高等学校の「課題研究」の担当教員、教育行政の研究担当主事等に下記のを身に付けることができますようにします。

- ▶ 論理的な思考方法
- ▶ 教員としての業務、学校教育活動にかかるより深い理解
- ▶ 積極的に学校運営、各指導計画、教材、教具、授業の進め方や生徒指導の改善に向けた研究に取り組む意識
- ▶ 学校、児童生徒の現状を的確に把握、分析する力その他の学校教育活動にかかる研究に必要な基礎的な視点や手法
- ▶ 当該教科等の関連学問領域での多様な理論、原理等の理解と授業等で応用する力
- ▶ 課題解決に向けての必要事項を提示、検証できる力

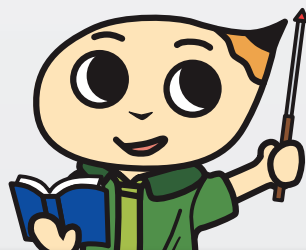
②コースの再編と学ぶ内容等

現在の各コースを大括りにして再編し、カリキュラムについて、各教科等に係る高度な知識・技能を学ぶとともに、教員としてそれらを活かしてどのように効果的な指導につなげていくか、子供に実生活等とのつながりを理解させるかまでも含めて指導できる力を身に付けるようにしていきます。また、「学校現場をフィールドとする活動」を採り入れ、実際の授業やその他の教育活動を直接に観察したり、実際に指導したりする経験をさせて、そこから授業や教育活動の組み立て方を省察したり、説明したり、論述したりする研究力を育成していきます。

副学長(入試改革・就職担当) 相部 保美
副学長(教職大学院改革・現職研修担当) 佐々木 基成
副学長(博士課程設置構想担当) 宮内 健二



これまでに教職大学院を修了された方による 教職大学院での学びの振り返り



本学の教職大学院を修了して、
現在、小・中学校の教員として活躍されている先生方に
教職大学院での学びについて振り返っていただきました。



宮原 仁美さん

岡垣町立岡垣中学校主幹教諭
(家庭科)

現職教員として平成23、24年度、学校運営リーダーコース在学
校内分掌: 教務主任

(入学動機)

○教職としてのスキルアップのために普段の教員生活では学べないことを希望していたところ、教職大学院のカリキュラムをみて、教育実践を理論付けて学べると考え、魅力を感じました。

(教職大学院での学びが教育現場でどのように活かされていますか)

○他の学校現場の参観、実習を重ねて視野が広がりました。学校内の校務分掌で他の先生方をリードする役割を担うにあたり、根拠を明確にして説明できるようになりました。他にも学校現場では教職大学院を修了した方々が活躍しています。



古家 寛也さん

宗像市立河東中学校教諭
(保健体育科)

平成24、25年度、教育実践力開発コース在学
本年度新規採用教員

(入学動機)

○学部卒業後に教員としての技量を高めたいと考えていたところ、指導教員に教職大学院進学を勧められ、教育内容、指導体制等に魅力を感じて進学を決めました。

(教職大学院での学びが教育現場でどのように活かされていますか)

○学校現場において教職大学院で学んだ理論が再認識できる場面が多々あり、教員としてのベースを養うことができていたのだと感じています。初任者研修では、教職大学院で取り組んだ研究を基に課題研修を行い、大学院で考えた理論を学校現場で実践することができました。



井内 昭子さん

宗像市立河東小学校教諭
(特別支援学級担任)

現職教員として平成24、25年度、生徒指導・教育相談リーダーコース在学
校内分掌: 特別支援教育コーディネーター

(入学動機)

○特別支援教育コーディネーターとして、特別支援教育について学び直したいと考えていたところ、教職大学院のパンフレットを見る機会があり、生徒指導・教育相談リーダーコースやカリキュラムに興味をもったので進学を決めました。

(教職大学院での学びが教育現場でどのように活かされていますか)

○学びたいと考えていた特別支援教育について講義、演習、実習で連動して学ぶことができ、専門性と実践力を身につけることができました。それらの学びが、現在の特別支援教育コーディネーターの職務に活かされています。また、学校現場のミドルリーダーとして特別支援教育コーディネーターとして、管理職や校内各分掌の主任や学級担任と連携する必要があること等、組織マネジメントについて学び、協働できるよう努力するようになりました。さらに、新しい教育観や情報に対して敏感であることの重要性も理解でき、現在も常に学び続ける教師でありたいと考えています。



梶原 悠さん

宗像市立自由ヶ丘小学校教諭

平成24、25年度、教育実践力開発コース在学
本年度新規採用教員

(入学動機)

○各教科の指導について学びを深めたいと考え、大学院へ進むことを決めました。

(教職大学院での学びが教育現場でどのように活かされていますか)

○在学中には、教員採用試験に合格するための勉強ではなく、教員として様々な子どもへの指導方法について学ぶことができました。

○多種多様な実習がありましたが、特に2年次に行った、週1・2回のペースでの一年間に及ぶ小学校実習では、児童がいない時の学級事務などの業務も含めた全体的な教員の仕事について学ぶことができました。

○初任者研修においても、大学院で学んだことを数多く生かすことができ、自分の学級における具体的な取組につなげることができました。

○大学院や実習先ですばらしい先生方との出会いがありました。修了した今でも、時々大学院を訪問し、心強い助言をいただいています。



教員採用試験 最前線!!

今号の特集2では、平成26年度の教員採用試験合格状況と、採用試験合格に向けたキャリア支援センターの取り組みについて紹介します。

都道府県・学校種別採用試験対策の「グループ」指導体制 教員採用試験を乗り切るために「仲間」と一緒に切磋琢磨

今回は教員採用試験についての近年の動向を踏まえて、お話をさせていただきます(JOYAMA通信29号も参照下さい)。近年、東京・大阪の大都市圏の採用者数は減少傾向にあり、一方、九州各県の教員採用者数は増加傾向にあります。学生のみなさんには、このような動向を参考にして是非とも「現役合格」という結果を、一人でも多くの方に手に入れて欲しいと思います。

試験科目は、筆記試験だけでなく、個人面接、論作文、集団討論・集団面接、模擬授業、各種実技等々、多様な試験内容があります。各都道府県の特徴もあり、それぞれ対策を立てていく必要があります。しかし、これらを個人で情報分析し、傾向と対策を立てていくには相当な時間と労力が必要です。

そこでキャリア支援センターでは、同じ都道府県や学校種を受験するみなさんで「グループ」を編成し、各受験地に合わせた指導を行っています。前年度に先輩たちが分析・作成した受験対策資料、実際に出題された試験問題を活用しながら、グループで協力して次年度対策を立てています。新3年生・4年生・大学院生のみなさん、キャリア支援センターの各グループに是非とも参加してください。そして、「仲間」と一緒に教員採用試験をみごとに突破していきましょう。

副理事(キャリア開発担当) 大竹 晋吾

教員採用試験の概要

教員採用試験は、都道府県教育委員会と指定都市教育委員会によって、個別に行われます。出願の時期、試験の日程、試験の内容はそれぞれの教育委員会によって異なります。試験内容は、筆記試験(教職教養・一般教養・専門教科)、論文、実技、集団討論、面接(個人・集団)、適性検査などが第1次、第2次試験と2回に分けて実施されるのが通例です。大分県など一部の教育委員会では、第3次試験まで実施されています。また、特定の資格等を有する者、スポーツ・芸術での技能や実績を有する者に対する加点や、一部試験の免除を実施したり、英会話や電子黒板を使用した模擬授業等を試験に導入している教育委員会もあります。試験に臨む場合は、早い段階で十分に情報を調べるのが重要となります。教員採用試験は、概ね以下の日程で実施されます。

教員採用試験日程

3月～5月	募集要項・願書配布
4月～6月中旬	願書受付
7月	第1次試験
8月～9月上旬	第2・3次試験
9月下旬～10月下旬	最終合格発表

例年、主な教育委員会の募集要項や願書は、キャリア支援センターで取り寄せ、配布しています。最近では、願書の受付について、紙媒体だけでなく、インターネットで行っている教育委員会もあります。希望する教育委員会の情報を必ず調べて、証明写真等必要なものを準備するようにしてください。



平成26年度実施の教員採用試験第1次試験は7月に、第2次・第3次の最終試験は8月から9月上旬にかけて実施されました。本学の福岡県内における試験の結果は、次頁のとおりです。福岡県・市の募集数は増加しており、特に福岡県・小学校の募集数の増加が顕著となっています。

本学の合格者数は、昨年度は133名(福岡県84名、福岡市26名、北九州市23名)、今年度は136名(福岡県86名、福岡市27名、北九州市23名)でした。今年度は第1次試験の合格者数は22名増加し、最終合格者数は3名増と上昇しました。



本学の教員採用試験合格状況



■ 福岡県内における教員採用試験合格状況 (平成25～26年度実施)

(平成27年2月1日現在)

		募集数		受験者数		1次合格者数		最終合格者数			
		25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	合格率	26年度	合格率
福岡県	小学校	330	380	104	97	68	63	52	50.0%	51	52.6%
	中学校	170	200	77	85	31	40	18	23.4%	23	27.1%
	高等学校	177	177	44	54	11	12	6	13.6%	6	11.1%
	特別支援学校	40	45	15	18	9	10	8	53.3%	6	33.3%
	小計	717	802	240	254	119	125	84	35.0%	86	33.9%
福岡市	小学校	170	185	55	61	33	45	18	32.7%	18	29.5%
	中学校	85	80	37	29	16	16	5	13.5%	6	20.7%
	高等学校	6	9	1	1	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	特別支援学校	32	40	9	6	3	4	3	33.3%	3	50.0%
	小計	293	314	102	97	52	65	26	25.5%	27	27.8%
北九州市	小学校	125	125	26	21	17	20	14	53.8%	15	71.4%
	中学校	70	55	16	18	9	6	6	37.5%	4	22.2%
	特別支援学校	25	30	6	10	5	8	3	50.0%	4	40.0%
	小計	220	210	48	49	31	34	23	47.9%	23	46.9%
合計		1,230	1,326	390	400	202	224	133	34.1%	136	34.0%

■ 公立学校教員採用試験合格状況 (平成25・26年度実施)

(平成27年2月1日現在)

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				合計				
	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	合格者実数
26	341	244	135	39.6%	203	101	56	27.6%	111	29	12	10.8%	58	37	19	32.8%	713	411	222	31.1%	197
25	360	228	141	39.2%	213	100	45	21.1%	103	31	11	10.7%	59	38	25	42.4%	735	397	222	30.2%	198

本学の教員採用試験の合格率は年々上昇しています。今年度福岡県を含む全ての出願者は562名で、出願数713件(併願151件を含む)のうち、合格者の実質人数は197名、その内訳は222名(小学校135名、中学校56名、高等学校12名、特別支援学校19名)でした。

小学校等の教員を目指して学生生活の中で取り組んでいただきたいこと

本学の教育研究の主目的は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員となるために必要な力を育てることです。そのために、学生の皆さんには、下記の事項について特に留意し、取り組んでいただくようお願いします。

①どの学校種の教員となることを目標とするのかを早めに決める。

同じ教員でも、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校では、職務内容や求められる力、教員採用選考試験の内容や方法も異なります。については、自分の希望、適性等を考え、早く目標をたてて、その実現に向けて学生生活を送ることが望まれます。

②4年間を通して普段の授業や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む。

小学校等の教員の職務は、まずは学習指導要領を踏まえて各教科等の指導を適切に行うことです。大学での各授業や実習をととして、教員として授業を行うための基礎、基盤的な知識や方法を身に付けることが重要です。

また、様々な学力や家庭環境にある児童生徒の理解とそれらに応じてさらに求められる指導、保護者や地域の人々との適切な対応も必要です。授業以外にも、部活動、ボランティア活動等を通して多くの人とかかわり、成功・失敗体験をすることにより、幅広い視野、組織的に取り組む力、コミュニケーション力を身に付けることが望まれます。

③学校現場で授業、児童生徒の現在、未来を理解する。

学校教育での授業の内容や方法、学ぶ児童生徒の課題はどんどん変化しています。1年次から、学校支援のボランティア活動等にも積極的に参加して、体験とおしながら、学校現場や教員の業務の現状、児童生徒の心理や行動等についての理解を深めていくことが望まれます。

④教員採用選考試験について理解し、それに向けた取組を遅くとも3年次には開始する。

卒業後に公立学校の教員になるためには、各都道府県・指定都市教育委員会等が毎年7月頃から行う教員採用選考試験に合格することが必要です。早めに各教育委員会の試験内容・方法を把握し、必要な取組を開始することが、現役合格のためには不可欠であり、有意義です。



キャリア支援センターの取り組み

キャリア支援センターには試験に役立つ情報が盛りだくさん！
学生のみならず、ぜひ足を運んでみてください！



キャリア支援センターでは、教員採用試験合格に向けて、様々な取り組みを行っています。

教員採用試験のための特別講座等

2年生後期から4年生の教員採用試験が終わるまで、通常の授業とは別に週2回無料で「教員採用試験のための特別講座」を学内で開講しています。特別講座は、2年生後期(受験地・受験校種決定のための講座)→3年生前期・後期(教職教養・専門教科の習得講座)→4年生前期(面接・模擬授業習得講座)と、2年生から4年生まで連続的かつ発展的に学ぶことができるようになっていきます。

2、3年生では、授業形式の講座に加え、都道府県別・学校種別にグループを編成し、筆記試験対策を中心として傾向分析をグループで行い、受験に向かう意欲を高めています。

4年生では、面接、模擬授業等を受験地に合わせて、きめ細かい指導を行っています。

また、音楽・体育実技、電子黒板を使用した模擬授業などの試験に対応するための講座も開講しています。

その他、学内で行う模擬試験、教育委員会による説明会等も開催していますので、積極的に参加してください。



教員採用試験のための特別講座▶



就職支援アドバイザーより —教師を目指すみなさんへ—

就職支援アドバイザーとは

就職支援アドバイザーは、教員採用試験特別講座の企画・運営、教員採用試験の情報収集、面接(集団・個人)、集団討論、模擬授業の指導、論文の添削等、教員採用試験全般の支援を行っています。

教育界は、子どもに対する深い愛情と使命感を持ったみなさんを求めています

就職支援アドバイザー
日高 孝一



是非、教師を目指してください。教育界は、若い優秀な教員を求めています。若い人材が学校に入ることによって、学校が活性化されます。しかしながら、教職

も狭き門になっています。その狭き門を突破するための手助けをします。みなさんが教員になるための様々な相談に応じます。気軽にキャリア支援センターを利用してください。

未来を拓く挑戦者

就職支援アドバイザー
山下 英俊



予測困難な環境を突破する度に、人は能力の可能性を広げていきます。ただ、自分のためだけでなく人とともにあるのが能力です。環境もまた人とともにある

ということです。子どもの能力を引き出す環境の一つが教師の仕事です。子どもと過ごす環境の中で自らの可能性にも挑戦できるのが教師です。教師は未来を拓く挑戦者です。

豊かな体験こそ、教師への道

就職支援アドバイザー
山中 栄夫



新入生のみなさんご入学おめでとうございます。希望に満ちた喜びの顔がきらきらと輝いています。

これから始まる大学生活。授業を初め、部活動やボランティア活動、皆さんのこの実体験こそ、人の師となる「豊かな人間性」を育みます。教師の道はそう広くはありません。皆さんの力になります。

キャリア支援センターで待っています。

教員採用試験合格者からのメッセージ

福岡市教員採用試験小学校合格 横浜市教員採用試験小学校合格

私は、教員採用試験に向けて週に1度小学校で学習支援ボランティアをしていました。

筆記試験の勉強も大切ですが、現役の先生や子どもと関わる中で様々な経験をすることも大切です。

子どもと関わることで、実践力も身につきますし、「教員になりたい!」という気持ちを高めることができます。

キャリア支援センターで行われている面接試験や模擬指導試験の練習に積極的に参加し、ボランティアで学んだことを2次試験の中で活かすことができるようにしておくことで、試験本番も落ち着いて臨むことができるのでオススメです!

初等教育教員養成課程
学校臨床教育学選修4年

佐藤 香菜さん



福岡県教員採用試験小学校合格 横浜市教員採用試験小学校合格

私が行った教員採用試験(筆記)の取り組みを2つ紹介したいと思います。1つ目は、1つの問題集を何度も繰り返すことです。自分の勉強法に不安があるとは思いますが「この一冊を完璧に覚える!」くらいの気持ちが必要だと思います。2つ目は、模試を多く受けることです。やる気を保つとともに、自分の成長を感じることができます。模試を受ける時間があればたくさん受けるといいと思います。

私は、教員採用試験を通して人として成長できたと感じています。面接や討論など様々な試験があるので対策が大変ですが、合格のために、成長できるように頑張りたいと思います。

初等教育教員養成課程
数学選修4年

安藤 純也さん



福岡市教員採用試験中学校技術科合格

福岡市の中学校技術は、ここ十何年も現役(大学卒業見込み)を採用していない状況でした。私の教員採用試験の勉強は、「その壁を絶対に打ち破る!」という気持ちからスタートしました。周りからは、合格は厳しいだろうと言われることも多くありましたが、その言葉が更に自分の教員採用試験への思いを熱くしていき、必死に努力しました。また、キャリア支援センターの先生方には非常にお世話になりました。自己PRの添削や場面指導・個人面接の指導など、とても親身になって熱い指導をしていただきました。

1~3年生の皆さんは、残りの大学生活において、今しかできない貴重な経験をたくさんし、その経験から得たことを全て自分の武器にできるようにしてほしいと思います。そして、最後まで諦めることなく、努力し続けて合格を勝ち取ってほしいと思います。

中等教育教員養成課程
技術専攻4年

新村 賢太郎さん



福岡県教員採用試験特別支援学校合格

教員採用試験では、研究室での療育や小学校でのボランティアの経験を生かすことができました。また、キャリア支援センター主催の模擬授業や面接練習、グループでの集団討論練習はたいへん役に立ちました。

同じルームの友達と教員採用試験の勉強に取り組みました。最後まで投げ出さずに頑張ることができたのも、共に励まし支え合える友達の存在があったからだと思います。教員採用試験を通して、大切な友達の存在に気づくことができました。

大学生だからこそできることがたくさんあると思います。いろいろなことに挑戦して経験を積み、有意義な大学生活を送ってほしいと思います。

特別支援教育教員養成課程4年

園畠 愉佳さん



「教育大へ行ってみよう!」を開催しました

福岡教育大学では、平成26年10月26日(日)に、大学開放推進事業「教育大へ行ってみよう!」を開催しました。

「科学」「ものづくり」や「音楽」など、様々なテーマをもとにした実験や実習を体験することで、科学をわかりやすく身近なものに感じてもらうとともに、「作り上げていくこと」の達成感を味わってもらうことを目的として、平成11年度から実施しており、今年で16回目です。

JR九州やトヨタ自動車九州株式会社、そしてコスモバイオ株式会社公開講座応援団の協力・協賛のもと、今回は仕掛け絵本づくり企画などを新たに加え、科学実験・体験、ものづくり・音楽体験企画として21のコースを実施し、子どもとその家族合わせて約1,200名の参加がありました。

当日はおおむね天候にも恵まれ、各会場では、目を生き生きと輝かせた子どもたちであふれていました。

参加した子どもたちからは、「とても広い部屋がいっぱいで、まさに大学だと思った。」「色々な実験や体験が楽しそうでも1日ではまわれなかった。」との声や、保護者の方からは、「貴重な体験を子どもにさせられて良かった。勉強のモチベーションの向上につながる。」「実験等によって、何か新たに興味を持てるようなきっかけになってくれると良いと思う。」など、たくさんの嬉しい言葉をいただきました。

参加した学生から

色とりどりの折り紙で、立体を作成する楽しさを味わってもらおうと始めた私たちの取り組みも、今年で7年目になりました。今年も、小学生や保護者の方々(530名以上)が参加して下さいました。アンケートでは、「難しいけれど楽しかった」、「家でも作りたい」といった感想が一番多く挙がったことから、興味関心を持てば、子どもたちは夢中で物事に取り組むということに気付かされました。

一つのものを作り上げた時の達成感を味わってもらったり、立体空間という、数学的見地からのアプローチをすることができた点は、私たちスタッフの喜びや励みになりました。来年に向けて、新しい立体メニューを考案中ですので、ご期待下さい。

大学院教育学研究科教育科学専攻数学教育コース 2年 **田口 紗也華** さん



折り紙で立体を作ろう



コロコロアイスクリームを作ろう

参加した学生から

「コロコロアイスクリームを作ろう」のスタッフとして参加することで、多くのことを学びました。一つ目は子ども達とのコミュニケーションの取り方です。一つ一つ作り方を教えながらアイスを作る際に、子供達が目を輝かせて活動をする姿を見て、適切なコミュニケーションの取り方を学びました。二つ目は適切な説明の仕方についてです。わかり易い教え方はどういうものなのか、どのようにすれば楽しんで活動してもらえるのか、常に意識しながら説明しました。このようなことを子ども達との交流を通して学ぶことができ、教員を目指す私にとっては、とても貴重な機会となりました。また、イベントに参加して下さった方々に喜んでいただけたことが何より嬉しかったです。

初等教育教員養成課程家庭選修 3年 **馬場 美紗登** さん

第49回福教大祭を開催しました

福岡教育大学では、11月22日(土)～23日(日)の日程で大学祭を開催しました。

— 福教大祭実行委員長からのコメント —

第49回福教大祭で実行委員長を務めさせていただきました、佐田隆俊です。学祭に参加された団体さんや学校関係者の皆さん、さらには近隣住民の方々の多大なるご協力のおかげで今年度も福教大祭を成功させることができました。皆さんのご理解・ご協力誠にありがとうございました。

テント周辺に立ち込める美味しそうな匂い、ステージの熱気溢れる臨場感、今でもその感覚は鮮明に残っています。そして何より印象に残っているものが皆さんの笑顔です。第49回福教大祭には多くの方々にお越しいただきました。その方々や団体さんの笑顔を見ているだけで元気に頑張ろうという気持ちになりました。皆さんの笑顔が学祭STAFFの原動力でした。そんな笑顔溢れる学祭を創ることができたことは私の誇りです。

そして来年度は節目となる第50回福教大祭が開催されます。先代の学祭STAFFを始めとする全学祭参加者の方々が創り上げてきた福教大祭の古き良き伝統を受け継ぎつつ、来年度の新しい学祭STAFFを迎えることで新しい風を吹き込んだ次世代の福教大祭を創りたいと考えております。福教大祭の伝統と新たな進化を遂げた第50回福教大祭にどうぞご期待ください!みなさまのお越しをお待ちしております。

さだ たかし
第49回福教大祭 学祭実行委員会実行委員長 **佐田 隆俊**さん
(特別支援教育教員養成課程1年)



平成26年度保護者説明会(福教大キャンパス)を開催しました

11月23日(日)、本学大I教室において、本学後援会との共催で平成26年度保護者説明会を開催しました。保護者説明会については、本年度6月から7月にかけて、長崎市、熊本市、大分市及び広島市で開催したところですが、本説明会については、毎年度、福教大祭(大学祭)の時期に合わせて大学キャンパス内で実施しているものです。

本年度は福教大祭2日目(最終日)に、220名の保護者の方々のご参加をいただきました。

説明会では、平田副学長(学生指導・学生支援担当)及び坂田後援会長からの挨拶に続き、長山教務委員長から履修状況、大竹キャリア支援センター長から就職状況及び天野学生委員長から学生生活についての説明が行われました。その後、主に就職に関する事項を中心に質疑応答が行われました。

終了後のアンケートでは「就職に関する現況、今後留意すべき事項等について理解でき、非常に参考になった。」「今現在、大学として目指されていることが明確に分かった。学生達にもミッションが伝わり、自分が果たすべき役割をしっかりと持った教員を目指してほしいと思う。」「大学祭の期間中の開催ということで、学生たちの活動の様子も見ることができて良かった。」などの感想が寄せられました。

保護者と大学及び後援会が情報を共有し交換し合う大変有意義な場であったと思います。保護者の皆さま、大学まで足を運んでいただき本当にありがとうございました。



大学からの説明の様子

本学附属久留米中学校中村典子教諭が 文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞しました

平成27年1月19日(月)、メルパルクホール(東京)において「平成26年度文部科学大臣優秀教職員表彰式」が開催され、本学附属久留米中学校の中村典子教諭が表彰されました。

文部科学省では、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教員について、その功績を表彰するとともに広く周知し、併せて我が国の教員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的として、平成18年度より、学校教育において顕著な実績を挙げている教員を表彰しています。

このたび中村教諭は、国語科学習指導法の研究において、特に顕著な成果を上げた教員として表彰されました。



初期消火への協力で感謝状が贈られました

平成26年12月22日(月)、宗像地区消防本部において、竹下謙司さん(共生社会教育課程4年)が行った初期消火への協力に対し、門脇消防長から感謝状が贈呈されました。

竹下さんは、11月末に、宗像市内で発生した建物火災において、火災をいち早く発見し、消火器を持って現場に駆けつけ、濃煙の中、建物内へ進入して初期消火を行うとともに、消防署に通報し、被害を最小限に食い止めたものです。消防本部からは、火災発見時には、火災は既に壁、天井付近にまで及んでいたと推察され、そのまま放置されていた場合には、延焼拡大した可能性が大であった旨の説明がありました。

竹下さんからは、「その時は、当初戸惑ったところもありましたが、結果として、家の方が無事で本当に良かったです。」との話がありました。また、消防長から「気付いても、普通は、次の行動に移すということがなかなかできません。普段から、人と人とのつながりを大切にしている気持ちが、今回の迅速で的確な行動につながったものと思います。」と感謝の言葉が述べられました。



寺尾学長への報告



感謝状の贈呈(左:門脇消防長 右:竹下さん)

教員養成の質向上に関する諮問会議から答申が提出されました



答申文書を受け取る寺尾学長

平成26年12月22日(月)、教員養成の質向上に関する諮問会議の吉田法稔議長より、学長宛に答申が提出されました。これは、本年6月20日に同会議に向けてなされた「本学の教員養成の質向上に向けた方策について(諮問)」を受け、これまでに9回にわたり、審議を行い、とりまとめていただいたものです。

答申を受領後、寺尾学長から、「今回の答申を受けて、教員採用試験合格率の向上に繋がる諸改革への取り組みを益々加速させ、教員養成の質向上を実現していきたい旨の謝辞が述べられました。

その後、委員と本学関係者による意見交換を行い、本年度の会議を閉会しました。なお、この諮問会議には、本学の教員養成の質向上に向けて、来年度以降も議論を行っていただくこととしています。

「パネルディスカッション 教員採用試験合格者が語る! 『現役一発合格を勝ち取るために!』」を開催しました

平成27年1月22日(木)に本学アカデミックホールにおいて「パネルディスカッション 教員採用試験合格者が語る!『現役一発合格を勝ち取るために!』」が開催され、教員を目指す学生ら約70名が参加しました。

はじめに、寺尾学長の挨拶があり、永富参与をコーディネーターとし、本年度の教員採用試験に合格した学生6名が自らの体験をもとに「勉強方法」「教員採用試験で得たもの」等についてディスカッションしました。参加した学生らは熱心にメモをとり、先輩の生の声に刺激を受けたようでした。

終了後のアンケートでは「今やるべきことが明確になった。」「教員採用試験はゴールではなく通過点、理想の教師像を深めたい。」などの感想が寄せられました。

本学では、全学をあげてのパネルディスカッションは初めての試みでしたが、とても有意義なイベントになりました。



パネルディスカッションの様子

平成26年度福岡教育大学学生表彰式を実施しました

平成27年2月23日(月)、本学第一会議室において、平成26年度福岡教育大学学生表彰式を実施しました。

本表彰は、研究、課外及び社会活動等において、特に顕著な成果や功績を収めた本学学生及び学生団体を表彰するもので、今年度は18名の学生と6つの学生団体が表彰の対象となりました。

表彰式では、本学後援会長、役職員及び指導教員・顧問教員が見守る中、対象となる学生及び学生団体の代表者に、表彰状と記念品が贈呈された後、寺尾学長から祝辞が述べられるとともに、坂田後援会長からお祝いの言葉をいただきました。また、学生代表の大学院教育学研究科2年の栗林敬宜(たかのぶ)さんからは、「それぞれの活動での成果は、大学の環境及び教職員の皆様の後押しによるものです。この度の表彰を糧に、様々な活動を通して、さらなる飛躍を期したいと思います。」との感謝の言葉と今後の抱負が述べられました。



学生表彰受賞者と学長及び関係者

「平成26年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を行いました

福岡教育大学では、平成27年2月23日(月)に「平成26年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を実施しました。

この賞は、「実習生としての教育的愛情、使命感の自覚、授業や学級運営等における教育方法の創意工夫、そして同僚と協同しながら切磋琢磨してきた数々の努力と工夫に敬意を払い、その功績を称える」ことを目的として、平成22年度から創設され、本年度は8名の学生が受賞いたしました。

表彰式では、寺尾学長から、受賞した学生一人一人に表彰状と記念品が贈呈された後、「質の高い教員養成という理念を掲げる本学にとって、皆さんの頑張りは、実に頼もしい限りであり、今回の表彰を機に、「教師になる」という思いを一層強く掲げ、自己自身の研鑽に励むとともに、友人や後輩たちにもよい刺激を与えていただきたい。」との挨拶がありました。

また、本学教育週間の期間中に「優秀教育実習生賞受賞者によるトークセッション」を実施しており、例年優秀教育実習生の貴重な体験談や自らの工夫などを後輩達へつなげていることが紹介され、来年度も継続してより楽しく実施したいと考えているので、是非協力いただきたいとの講話がありました。

その後、学生の代表から、「この賞を受賞できたのは、附属学校の先生方、大学で指導していただいた先生、なにより共に実習を乗り越えた仲間のおかげです。」と感謝の気持ちが述べられました。また、「教育実習を通して、私は授業づくりや授業での言動、子どもたちへの接し方など多くのことを学びました。特に授業での言動については、机上の学びでは得られない大きな学びを得ることができたとともに、教師としてあるべき姿を感じることができ、今後自分が目指していく教師像について考えることもできました。」と力強い謝辞がありました。

表彰式終了後は、学長、理事をはじめ各附属学校から出席いただいた校長、副校長、大学の指導教員とで、実習期間中の思い出話を花を咲かせながら、なごやかな雰囲気写真撮影を行いました。



優秀教育実習生賞受賞者と学長及び関係者

受賞した学生から

教育実習では、授業づくりや生徒への接し方など多くのことを学びました。特に授業づくりについては、生徒が引き込まれていく授業を意識し、実習前から同じ課程の仲間とともに準備を進めました。教育実習を乗り越えることができたのは、仲間の支えがあってこそだと思います。授業で失敗することもありましたが、その度に仲間の姿や生徒の姿を見て、前に進むことができました。そして、附属学校の先生や指導教員の先生からのあたたかい言葉は、何よりも励みになりました。

3週間の教育実習を終えて、私は教師になりたいという思いを一層強く持つことができました。附属学校の先生からかけていただいた「教育実習は教師の原点です。」という言葉は、今の私の原動力となっています。

教師になるためには、まだまだ乗り越えなければならない壁がいくつもありますが、教育実習での経験を活かしてこれからも学び続けていきたいと思っています。



こが 古賀 もえ さん
中等教育教員養成課程家庭専攻 3年



授業紹介

行・草書法

美術教育講座 准教授 服部 一啓



教員プロフィール
服部 一啓
(はっとり かずたか)

新潟大学大学院教育学研究科修了。愛媛県立高校教諭を経て本学に着任。
主な研究分野は近代の書、漢字書制作について。
専門は書道、書写書道教育。
書文化、文字教育の指導者を育成します。

書道は「書くこと」だけじゃない!

情報化社会の発展はますます顕著となり、手書き文字の重要性は学校教育にも投影され、小・中学校では国語科書写、高等学校では芸術科書道として位置付けられています。“書道”という「書くこと」と捉えられがちですが、実は「調べ・考えること」「味わうこと」が合わさって“書道”といえます。

福岡教育大学の特色! 中国・四国・九州地方で唯一 “書道教員養成”

書道教員の養成を目的とする専攻が中等書道専攻、書作による人間探究を掲げるのが芸術課程書美コース。通称『中書』『芸書』の学生は、書道教員免許取得にかかる科目「行・草書法」授業を受講します。

授業は実技と講義

「行・草書法」では、教科書に掲載される、中国・日本の歴代の行書・草書体の古名跡を学ぶことが目的です。実技では臨書(古名跡を手本として、その書美の原理や筆法を学ぶ取る)を通して基本的な書法を体得。講義では古名跡の歴史的背景や筆者理解に言及

し、総合的に臨書力を育成します。

また講評風景のように、課題を並べ、各自自評を語り、全員で鑑賞をおこないます。教員からは評価と課題点についての講評を受けます。書表現の基礎を培い、書における表現と鑑賞について考える場です。

高校芸術科書道教員としての力を育成!

芸術という柱のもと、書を通して豊かな感性を育む、人間形成の育成に重点を置いています。書道免許科目も一律ではなく「書道」「書道史」「書論・鑑賞」「書道科教育法」に及び、教育者としてバランスのとれた全人格的人材の育成を目指しています。



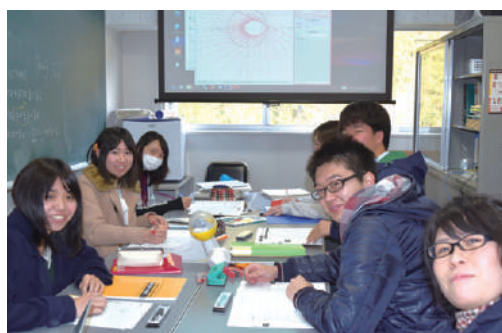
算数・数学科の授業研究や教材研究に必要な課題探究力を育てる

数学教育講座 岩田 耕司 研究室

本研究室には、現在、学部3年生7名、学部4年生7名、大学院1年生2名、大学院2年生1名の計17名が在籍しています。算数や数学の授業をする上で必要な数学教育の専門性だけでなく、幅広い経験や広い視野を持った教員になって欲しいとの思いから、よく学び、よく遊びをモットーに、ルームでの活動を大切にしています。

学部のゼミでは、小学校、中学校、高等学校それぞれの学習指導要領やその解説をもとに、分かったつもりやふりをせず、分からないことや知りたいことを自由に出し合い、自分たちで調べていくことを通して、数学教育の今日的な課題や、算数・数学の授業や教材についての議論を深めています。数学的な考え方を育てるにはどうしたらよいか、数学のよさを実感できるようにするためにはどうしたらよいかなど、それぞれが興味を持った内容をテーマに卒業研究を進めていきます。

ルームに入ってきた学生の多くが、小・中・高等学校の教員など、教育関係の職業に就くため、ゼミや卒業研究では、教育現場ですぐに活用できるような実践的な内容を重視しつつも、それだけではなく、授業研究や教材研究において表面的な考察や工夫に留まることのないように、将来にわたって課題を深く掘り下げて考える力や姿勢を育てることに特に注意を払って指導にあたっています。授業研究や教材研究を楽しめる教員になって欲しいと願っています。



数 学 教 育 講 座

数学教育講座には現在15名の教員が所属しており、主に初等教育教員養成課程数学選修および中等教育教員養成課程数学専攻に所属する学生の教育に携わっています。いずれの課程においても、これからの算数教育・数学教育を担うことができるような教員の養成を目指し、教科専門と教科指導法がバランスよく学べるように充実したカリキュラムを整えています。

日頃から、教員養成を意識し、小学校から高等学校までの間に学ぶ算数・数学の背景にある専門的な基礎理論、そして指導法の専門理論をしっかりと学べるような授業を行っています。さらに、3年次以降の少人数セミナーや卒業研究ゼミなどを通して、より実践的な指導力が養成できるようにきめ細かな指導をしています。また、新入生講演会、学生研修、教員採用試験の専門教科対策・集団討論対策・面接模擬授業対策など、数学教育講座をあげて学生の就職支援に取り組んでおり、卒業生のほとんどが教職の道に進んでいます。



トライアスロン愛好会

Triathlon Club

私たちトライアスロン愛好会は、男子9名、女子17名の計26名で活動しています。この愛好会が発足して今年でまだ4年ということもあり、確立していない事が多くありますが、皆が和気あいあいと日々練習に励んでいます。

普段の練習は主に走るのですが、月に2〜3回ほど、宗像トライアスロンクラブの方々と一緒にバイクの練習をしたり、Genkaiアスリートクラブの方々、トヨタ自動車九州の陸上部の方々と一緒に練習を行い、地域の方々とも接する機会が多く、交流を深め、広い人間関係を作ることができます。

部員は全員、今までトライアスロンの経験がゼロで、トライアスロンの大会出場を目指している人から運動不足解消を目的としている人までいろいろな人が入会しています。昨年はサークルで初めてトライアスロンの大会に参加し、無事に全員ゴールすることができました。

また、部員の中にはマラソンに挑戦してみたいという人も多く、昨年はフルマラソンを完走した人もいます。また、今まで陸上部でもなく、文化系の部活だったという人でもマラソンやトライアスロンに挑戦し、見事完走していますので、初心者でも安心して一緒に活動できます。

初等教育教員養成課程社会科選修 2年 菊池 昌登



書道科書作会

Calligrapher Club

書道科書作会は、中等教育教員養成課程書道専攻と芸術課程書美コースの学生60名で構成されています。主に書道の作品制作を行い、学内外で展覧会を開催しています。普段は各自のペースで練習をしていますが、定期的に強化錬成会や班ごとに分かれて批評会を行い、互いに切磋琢磨しながら制作に励んでいます。

毎年2月〜3月頃に、全員による全学年書作展を学外で開催します。今年度は福岡県立美術館で行いました。また、毎年夏季休業中は出身地ごとに分かれ、瀬戸内県人会書作展(九州以外の出身者による書作展)・福岡県人書作展(福岡県出身者による書作展)・六県連合書作展(福岡県以外の九州出身者による書作展)を各地で開催しています。昨年は下関市・福岡市・佐賀市でそれぞれ開催しました。学外で書作展を行うことにより、自身の技術力の向上と、より多くの方々への「書」という芸術文化の発信を目指しています。

学内では、学年ごとの学年展や1・2年生合同のいろは書作展、有志によるグループ展などを随時開催しています。見かけた際には、どうぞ気軽にお立ち寄りください。

生涯スポーツ芸術課程書美コース 4年 安島 みさき



研究 連携

学校、教育委員会等との連携

福岡教育大学では、学校、教育委員会及びその他の機関・団体との連携事業や共同研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元します。

連載
第10回

現代的教育課題に応える共同研究の推進

—音楽・図画工作・家庭・体育・書写・道徳・特別活動における言語活動の充実—

第2弾福岡教育大学研究開発プロジェクト[2年目]

共同研究校による研究発表会

福岡教育大学では、各教科・領域の本質をふまえた「言語活動」のあり方を実践的に追究する研究開発プロジェクトを推進して参りました。このプロジェクトの最大の特徴は、本学のパートナーとなる福岡県内の小学校を学校単位で募り、ともに協力して研究を推進していくことにあります。平成25年度より、音楽、図画工作、家庭、体育、書写、道徳、特別活動に関するプロジェクトを進め、本年度は6つの教科等で研究発表会を開催することができました。



教科等名(共同研究校)

音楽(糸島市立東風小学校)

研究発表会のテーマ

進んで音楽を楽しむ
音楽科学習

～思いや意図を言葉などで表す活動の工夫を通して～

研究発表会日時

平成26年10月23日(木) 13:30～17:00

本研究発表会は福岡地区小学校音楽教育研究会との共同で行われました。本発表会では、東風小学校の児童による合唱発表及び文科省教科調査官の津田正之先生の講演とともに、第1学年では「いろいろなおとに親しもう」(鑑賞)、第3学年では「星空の様子を表す音楽をつくろう」(音楽づくり)、第6学年では「歌い継ごう! ころのうた」(歌唱)の公開研究授業が行われました。

各授業では、児童たちが音楽を知覚感受し、より深く味わうために、言葉のみならず身体表現や図形楽譜などを用いて相互にコミュニケーションを図り思考を深める手立てがとられていました。また、言葉などによる交流によって各授業において音楽活動の質が高められている様子を見ることができました。



教科等名(共同研究校)

図画工作(宗像市立玄海東小学校)

研究発表会のテーマ

コミュニケーションや
感性・情緒の基盤となる
図画工作科の言語活動

研究発表会日時

平成26年10月28日(火) 14:10～16:50

「形と色を重ねて、思いを広げて」(5年生)と「くぎうちトントン」(3年生)の2件の公開授業を設定し、授業後に協議会を開催しました。

子どもたちは活動に没頭し、ときには

一人でじっくりと考え、あるときは先生や友だちと一緒に考えながら、思いが形や色に姿を変える感動を伝えたり、できたものを見てもらいながら、一生懸命に説明していました。

また、教師が、活動を振り返ることのできる場の設定を工夫することで、子どもたちの思いを言葉として引き出していく場面も見られました。そして、作品の形や色が変わるのにもなって、表現される思いや活動の質も豊かに変化してきました。

図画工作科における言語活動は、子どもたちの豊かな体験や感動から生じる言葉や表情のコミュニケーションを基礎とし、その言葉や表情を拾い上げようとする教師の工夫や努力によって、感性や情緒を育むツールとなり得ることが確認できました。



教科等名(共同研究校)

体育(春日市立天神山小学校)

研究発表会のテーマ

健康力旺盛な子どもを育てる体育科学習(運動領域)指導
～表現と学び合いを連続・発展させるための「ふり返りの場」の工夫を通して～

研究発表会日時

平成26年11月21日(金) 13:45～16:50

本研究発表会は、表現と学び合いを連続・発展するための「ふり返りの場」を位置付けた学習過程を通して、健康力旺盛な子どもを育てるための体育科学習指導の在り方を究明することを目的に開催されました。

この研究発表会では、6学年のすべてで6つの公開授業が行われ、子どもが生き生きと活動する授業が展開されました。

特に、「ふり返りの場」を位置付けたことにより、子どもの言語活動が活発に行われ、そのことによって動きや学び方の理解が進み、授業の成果がより確実となる授業実践が公開されました。さらに、これまで公開授業ではあまり取り上げられなかったボール運動のベースボール型の授業実践では、日頃の授業に応用可能な工夫の提示が数多く行われ好評を得ていました。研究発表会当日は、多くの参観者が来られ、盛大な発表会となりました。



教科等名(共同研究校)

書写(宗像市立赤間西小学校)

研究発表会のテーマ

意欲的に自分の考えを表現・交流し、“わかった”“できた”を
実感する書写学習
—「目習い」による文字分析活動を通して—

研究発表会日時

平成26年11月25日(火) 14:10～16:50

赤間西小学校には、平成24年度より、空き教室を利用した特別教室「書写室」が設置されています。書写教育において恵まれた環境の中で、本研究プロジェクトの公開授業に当たって、3年生と5年生の2つの授業を企画しました。1つは「書写室」での書写環境が充実した中での授業で、もう1つは一般教室を想定した授業です。

当日は、県内各地より80名程の教育関係者に参観いただきました。3年生の授業では、書写用語を使いながら、3年生とは思えない程の言語活動が行われている姿、5年生では自分の文字を変えるためにはどのようにしたらよいのか思考・判断し、そして文章表現、言語表現する姿が見られました。授業後の研究協議会においては、「習字」ではなく「書写」だからその言語活動を重視した本研究の価値を中心に協議が行われ、書写教育研究において貴重な時を過ごすことができました。



教科等名(共同研究校)

道徳(糸島市立波多江小学校)

研究発表会のテーマ

「はたえの心」をふくらませる子どもを育てる道徳学習指導
～言語活動を活性化する発問構成の工夫を通して～

研究発表会日時

平成26年11月20日(木) 13:30～16:50

糸島市立波多江小学校との共同研究では、低・中・高学年の発達の段階に応じた言語活動の具体化、発問構成の工夫に焦点を当てて、学年段階に応じた道徳の時間の指導の視点を「言葉」との関わりで明らかにしてきました。研究発表会においては、体育館での60分間の5・6年生合同授業をはじめ全学級の授業を公開し、2年間の研究成果を板書型指導案のかたちで提案しました。

参加された方々へのアンケートでは、「どのクラスも板書がとても工夫されており、また子どもたちがしっかりと自分の考えを持って授業に取り組んでいる姿が素晴らしかった。」「終末段階における日常生活場面を振り返らせる手立てとして、どのクラスも発問だけでなく別の資料を使って考えさせるなど工夫されており、参考にしたいと思った。」「5、6年合同の道徳学習での、相手を見つけての交流活動では、子どもたちがとても自然な形で動き、一人一人が自分の考えを持って言語化している姿に感動しました。」といった意見や感想をいただきました。



教科等名(共同研究校)

特別活動(福津市立福間南小学校)

研究発表会のテーマ

「話し合い～実践を通して、よりよい生活をつくる学級活動の創造」
～言語活動を工夫した子どもも熟議と協働の充実を中心に～

研究発表会日時

平成26年10月29日(水) 13:20～17:00

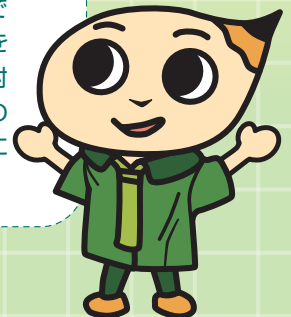
本研究は、言語活動を工夫した「学級活動」を中心にして、「目標に向かって、話し合いを通して思いを伝え合い、認め合うことで、友達と相互理解を深め、望ましい人間関係を築く」という学校の重点目標の達成をめざすものです。そのために、1.子どもたち全員での原案づくり、2.話し合い～実践の際の学級活動ノートの活用、という2つの手立てによって「学級活動」における言語活動の充実をはかりました。

発表会では、公開授業、全体会(研究構想説明、全体協議会)、講演が行われました。全体会では、公開授業や研究構想に関して、原案を作成していく過程や作成された原案を精選していく過程での方法論の不明瞭さが指摘された一方で、子どもたちが集団決定に至るまでの過程やそこでの子どもたちの姿を高く評価していただきました。



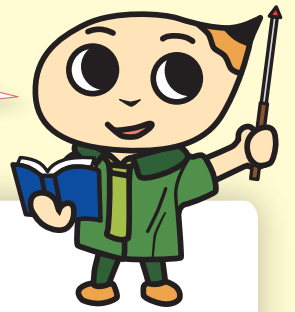
まとめ

実技中心の教科では、基礎的な知識技能を習得させ、これに思考力・判断力・表現力等の育成に則した言語活動を積極的に取り入れた授業展開を行うには相応の工夫が必要です。しかしながら、研究成果となる公開授業では、各教科に関する基礎的な知識や技能を習得させる過程において、積極的に記述活動や対話活動を導入し、さらには、生産的な対話や議論を促進するための工夫が随所に見られました。本プロジェクトでは、教材教具の活用と工夫により、教科の本質をふまえた「言語活動の充実」を実践し、現場のニーズに十分に応える内容であったと考えられます。



社会連携 宗像ユリックスとの連携

福岡教育大学では、本学が有する知的・物的・人的資源を活かしながら地域の様々な活動に寄与することを目的として、自治体や教育委員会等と連携協力協定を締結し、様々な連携事業を実施しています。今号では、宗像市にある公益財団法人宗像ユリックスとの音楽アウトリーチ活動について紹介いたします。



福岡教育大学音楽教育講座 音楽アウトリーチ活動報告

原 尚志(音楽教育講座准教授)

福岡教育大学音楽教育講座では、今年度、宗像地域の学校現場やデイケア施設等でのアウトリーチ活動を企画運営してきました。今回は宗像ユリックス『いきいき出前コンサート』と『平成26年度学長裁量経費:「音楽アウトリーチ」による地域学校現場との互惠関係の構築』の取り組みについて簡単にご紹介したいと思います。そもそもこれらの活動を始めたいと思ったきっかけは、学生達の「学外でもっと演奏できる機会が欲しい」といった要望からでした。またそれと同時に、宗像ユリックスさんから「教育大の音楽科の学生の皆さんと何か一緒に活動できないか」とのお話を頂き、ちょうどタイミングよくお互いの思いが重なり、「これはやるしかない!」と一念発起して始めました。

まず、宗像ユリックスで取り組まれている『いきいき出前コンサート』という音楽アウトリーチ活動の一環として、宗像市内のデイケア施設4か所で訪問演奏を行いました。

平成26年11月24日に<さわやかむなかたのもり>で開催されたコンサートでは、ピアノ連弾や声楽・弦楽器等によるプログラムで演奏に臨みました。

『平成26年度学長裁量経費』による活動としては、宗像市と福津市の小学校で訪問演奏を行いました。平成26年12月18日に開催した宗像市立南郷小学校での音楽アウトリーチでは、本学教員である山中和佳子講師によるフルート独奏をはじめとして、学生のピアノやヴァイオリン演奏等のプログラムを企画して演奏に臨みました。

これらの活動を行う場では、聴き手の多くはクラシック音楽のく生の演奏に触れたことのない方々がほとんどです。そういった意味で今年度のアウトリーチ活動を通して、クラシック音楽の生演奏の素晴らしさ・楽しさ等を伝えていくことの大切さを再認識することができましたし、学生達にとっては何よりも“音楽をすること”の意識とともに、企画力や演奏力の向上に大いに役立つ貴重な経験であったと確信します。

来年度以降もぜひこのような地域に根差した音楽活動を継続していきたいと考えております。

「アウトリーチ活動」とは

国民の研究活動・科学技術への興味や関心を高め、かつ国民との双方向的な対話を通じて国民のニーズを研究者が共有するため、研究者自身が国民一般に対して行う双方向的なコミュニケーション活動を指します。(平成17年4月 科学技術・学術審議会 基本計画特別委員会による「第3期科学技術基本計画」の重要施策(中間とりまとめ)より)



“まちぼうけ”を熱唱中の原尚志准教授



宗像市立南郷小学校での音楽アウトリーチ



終演後出演者全員で



今後も継続的な連携活動を行い、地域社会の発展に寄与するため、積極的な取り組みを推進してまいります。



飛び出せ! 教育大トリオ

公益財団法人宗像ユリックス
館長 松永 年生さん

宗像ユリックスはオープンから27年目のこの春、二つの意味で“特別の4月”を迎えようとしています。

ひとつは、福岡教育大学の卒業生3人が4月からそろって、私たちの仲間としてユリックスで働き始めることです。別掲で大いに抱負を語っている3君がそれぞれです。それぞれの専門性と若さを生かして、どんな新しい風を巻き起こしてくれるのか、楽しみです。

もうひとつは、福岡教育大学と宗像ユリックスの間で、初めて「連携・協力に関する協定書」を交わすことです。両者がそれぞれの“得意技”を活かし、それを結び合うことによって豊かなまちづくりにつなげていこうというねらいです。

すでにいろんな分野で連携・協力は進んでいるのですが、それをより確かなかたちにしていこうということでもあります。

大学は地域社会にとって知の集積拠点であり、情報と人材の宝庫です。宗像ユリックスはこのまちの文化・芸術活動や生涯学習、健康づくりの拠点でありたいと願っています。その両者がしっかりとスクラムを組む。それは多くの市民の期待するところでしょう。

宗像ユリックスはこの“特別の4月”を歴史に刻みこんで、そこからまた新たなスタートを切っていきたいと考えています。

本学卒業生で、すでに宗像ユリックスで事業スタッフとして勤務している屋代薫さん、この4月から宗像ユリックスでの勤務が決まっている森義央さん、小林明日香さんの3人にメッセージをいただきました。



やしろ かおる
屋代 薫さん

大学院教育学研究科教育科学専攻
音楽教育コース 平成25年度修了

私は、平成26年4月より宗像ユリックスに勤務しています。音楽担当として、ホールコンサート・アウトリーチ事業等で充実した日々を送っています。

なかでもアウトリーチ事業では、私が学生時代にお世話になった音楽科の原尚志先生や現役の学生の皆さんと一緒に福祉施設へ「生の音楽」をお届けする活動をスタートさせました。

今後も私の仕事の中心は、大学で学んだ「音楽」です。音楽を楽しむ人が暮らし、集う街になればと夢見ています。



もり ともひろ
森 義央さん

初等教育教員養成課程美術選修
平成25年度卒業

「作品はひとりにつくれない」

在学時に研究していた彫刻から学んだことです。芸術は個人でやる印象があるかもしれませんが、人と環境があるから作品をつくることができます。

当館でのコンサートも、そこに支える人たちと環境があるからひとつの大きな作品になります。この仕事を通して学んだことをもっと大切にしようと感じました。

ひとつをつくる時、人と環境を大切にその時間を楽しんでください。これが私の芸術です。

職員として作家として、これからも楽しみます。



こばやし あすか
小林 明日香さん

大学院教育学研究科教育科学専攻
音楽教育コース 平成26年度修了

音楽を学んできたなかで、将来は音楽文化を支える仕事に就きたいと考えるようになりました。そのため、宗像ユリックスで働く機会を与えて頂き、大変感謝しています。

今後もさらに勉強し、多くの人々に素敵な音楽を届け、お客様とアーティストをつなぐ役割を果たしていきたいと思います。

一職員として宗像ユリックスをさらに盛り上げ、魅力的な場所にできるよう、頑張ります。





北九州市立浅川小学校
つくだ みか
教諭 佃 美香さん

平成24年3月

初等教育教員養成課程 幼児教育選修卒業



算数の授業

教員生活も3年が経とうとしています…とにかく毎日楽しいです。最初は、「何が分からないのかが分からない」そこからのスタートでしたが、先輩の先生方から様々なことを教えていただき、少しずつ見通しを立てることができるようになってきました。

先生の一曰!

朝早くから、夜遅くまで忙しく、全教科の授業や生徒指導、その他いろいろなことが日々起り、「さようなら」のあいさつをするまで座る間もほとんどありません。でも、その大変さ以上にやりがいがあり、子どもたちから得るものはとても大きいです。勉強が分かったときの嬉しそうな表情、様々な行事に真剣に取り組む姿などを見るたびに、この仕事に就けて本当によかったなと感じます。放課後は、一日の出来事を先生方と楽しくおしゃべりしながら、打ち合わせをしたり授業の準備をしたりします。どの時間の授業も子どもにとっては一度しかないもの。その授業づくりはとても大切なので、教材研究をしっかりと授業に望むように心がけています。

福教大生のみなさんへ

教師になるという目標に向かって学業に励んでいる人、サークル活動に熱中している人など、何に力を入れて大学生活を送っているかはそれぞれだと思います。しかし、大学生活での経験が自分自身を成長させてくれることは間違いありません。私も、学業・サークル・アルバイト・ボランティアと、寝る間を惜しんで多くの経験をしました。その経験が私を成長させてくれたことを、働き始めて気付くことが多々ありました。そして、大学時代にできた友達存在は、何よりも大きいです。今でも月に一度は集まり、同じ教師としての悩みを相談しあってお互い高め合うことができます。

たくさんの経験をする!今を精一杯楽しむ!大学での日々を有意義なものにしながら、同じ目標をもつ仲間と共に、とても素敵な職業「教師」を目指してがんばってください。応援しています。



道徳の授業



大学の卒業旅行(沖縄)

公開講座 講座紹介

毎年市民の皆さまから好評いただいている公開講座を今年度も開講します！
講座の詳しい内容・申込方法等は連携推進課までお問い合わせください。

【問い合わせ先】
連携推進課
〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1
電話:0940-35-1540 FAX:0940-35-1700
E-mail:trenkei@fukuoka-edu.ac.jp

番号	講座名	開設時期	受講対象者	定員	講習料
1	アートスクール 金工基礎講座 —自分だけのペーパーウェイトを作ろう!—	8/1, 8/29 (同内容で2日間開催)	小学3年生～中学3年生	40	1,550
2	バスケットボール サマーキャンプ	8/1, 8/2	中学生	40	2,000
3	木工基礎講座 —オリジナル木製ラックをつくろう!—	8/8, 8/9	小学3年生～中学3年生	15	3,500
4	アートスクール デザイン基礎講座 —年賀状を作ろう—	12/5, 12/12	中学生・高校生	10	2,400
5	勝つための実践的柔道テクニック	12/12, 12/13	中学生	20	2,000
6	バスケットボール スプリングキャンプ	2/6, 2/7	中学生	40	2,000
7	基礎から始めるパソコン入門(Windows7編)	8/1, 8/22 (同内容で2日間開催)	市民一般	14	1,750
8	基礎から始めるパソコン入門(Windows8編)	8/29, 9/5 (同内容で2日間開催)	市民一般	14	1,750
9	身近な統計学 —Excelを用いた統計的手法—	9/12	市民一般	7	1,750
10	アートスクール 美術史	10/5, 10/19, 11/9, 11/30	市民一般	30	2,100
11	アートスクール 鉄彫刻入門 ※彫刻作品制作	10/10, 10/17	市民一般	15	4,500
12	★視覚障害児の発達と支援	8/15, 8/16	現職教員・市民一般	60	3,700
13	◆算数科の専門的背景と指導法を考えよう—2015—	8/25	小学校教員	30	無料
14	◆数学科の専門的背景と指導法を考えよう—2015—	8/28	中学校・高等学校教員	36	無料
15	◆美術科教材研究Ⅵ	8/6, 8/7	中学校・高等学校・特別支援学校の 教諭・常勤講師・非常勤講師	24	無料
16	◆図画工作科教材研究	8/24, 8/25	小学校・特別支援学校 (主幹教諭・指導教諭・教諭・講師)	24	500
17	◆書写基礎講座	8/6, 8/7	小学校・中学校教員	30	1,500
18	◆書道科教師のためのスキルアップ講座	8/4	高等学校芸術科書道の教員・講師	10	1,500
19	◎小中学校教師の実践的指導力向上のための 夏の公開講座	未定	宗像市・福津市小・中学校教員 上市以外で希望する小・中学校教員	150	無料

※★は免許法認定公開講座として実施します
 ※◆は福岡県教育センターとの連携講座です
 ※◎は宗像市教育委員会・福津市教育委員会との連携講座です
 ※すべての講座において、テキスト代・材料費等の教材費は受講料に含まれています

公開講座の詳しい内容、申込方法等は、連携推進課までお問い合わせください。
 なお、この申込に際し得た個人情報、公開講座の事業のみに利用し、目的外には利用しません。

特別支援教育第一教棟の改修工事を行いました。

本施設は、新しい時代に対応した特別支援教育の今日的課題の実現のため、施設の特長性を考慮したバリアフリー環境の整備、障害者支援力育成機能及び学生の学習環境向上に配慮した新たな学習スペースの整備を図ることを目的として改修を行いました。

今回の改修では、70名規模の大講義室、障害者の自立活動を促す実践・演習の場としての「自立活動室」、及び学生・教職員のための「リフレッシュルーム」を新たに設置しました。また、バリアフリー環境の整備として、歩行困難者に配慮し、既設エレベーター設備を更新して安全性を確保するとともに、エントランスへスムーズにアクセスできる身障者駐車場を確保し、更に敷地の高低差を利用して3階部分へ通行できる屋外スロープを設置しました。

今回の改修により、明るく快適な学習環境の整った施設へと生まれ変わりました。本施設を活発に利用いただくことで、これから社会で活躍される学生のみなさんのお役に立てることを願います。



特別支援教育第一教棟 外観

公式ホームページをリニューアルしました。

平成27年3月に、福岡教育大学公式ホームページをリニューアルしました。

より使いやすく、よりわかりやすいホームページとなるように改善しております。

また、スマートフォンにも対応しており、スマートフォンで閲覧していただいた際にも、より分かりやすく、操作しやすくなりました。

リニューアルにあたり、トップページのアドレス(<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>)に変更はありませんが、トップページ以外のページについては、アドレスが変更になっております。各ページをブックマーク等に登録されている方は、お手数をおかけしますが変更をお願いいたします。

今後とも、内容の充実を図るとともに、積極的な情報発信を行いますので、引き続きご利用ください。



表紙モデルの福教大生☆

今号では、本学の専門職学位課程(教職大学院)に在籍する5名の方にご登場いただきました。現在、本学教職大学院には37名が在籍し、日々教員としての資質を磨いています。

表紙にご登場いただいた、教育実践力開発コースの吉武さん、本田さんには、新しい学校づくりのホープとして、生徒指導・教育相談リーダーコースの内田さん、学校運営リーダーコースの酒井さん、永光さんには、学校・地域の中核となるスクールリーダーとして、今後益々のご活躍を期待しています。

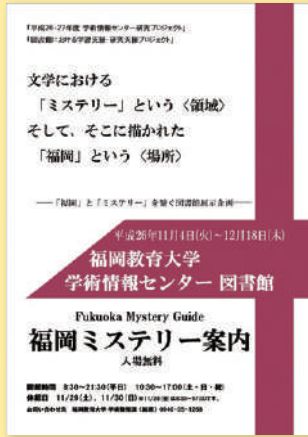


キャンパスからの便り

✉ 学術情報センター

図書館企画展示「福岡ミステリー案内」

図書館では、平成26・27年度学術情報センター研究プロジェクトの1つである「図書館における学習支援・研究支援プロジェクト」事業の一環として、大学院教育学研究科教育科学専攻国語教育コースの院生による企画展示「福岡ミステリー案内」を平成26年11月4日から12月18日まで実施しました。「福岡ミステリー案内」では、福岡が舞台として登場するミステリー作品や、福岡と関連する作家のミステリー作品を図書館エントランスにおいてパネル展示で案内し、図書館内に読書案内コーナーを設けて作品を展示・紹介しました。期間中はたくさんの利用者がパネル展示に足を止め、読書案内コーナーの作品を興味深げに手に取っていました。



✉ 同窓会 城山会

城山会会報45号発行

平成27年1月会報45号を発行いたしました。
卒業会員の皆様へは、4支部、28支会より配布。在学生(準会員)の皆様へはJOYAMA通信と同封にて保護者の皆様へ送付いたします。学内学生会館1階にも置いておりますので、是非ご覧ください。
ご意見等ございましたら同窓会事務局までご連絡ください。



同窓会城山会事務局
TEL・FAX: 0940-33-2211
e-mail: jouyamakai@able.ocn.ne.jp

✉ 後援会

平成27年度後援会総会のお知らせ

平成27年度後援会総会は下記の日程で開催の予定です。

日時 平成27年4月3日(金) 13:30～
場所 福岡教育大学 大I教室(教育総合研究所内)

開始前13時から大学より就職についての説明をしていただきます。「後援会だより70号」でお知らせしましたが、会場を変更いたします。他に変更がある場合は、ホームページ等でお知らせをいたします。

※「後援会だより第70号」はお手元に届きましたか? 届いていない方は、下記後援会事務局までご連絡をお願いいたします。

後援会だより



後援会事務局
TEL・FAX: 0940-33-8070
e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp

✉ 学生広報スタッフ大募集

大学や学生情報のアイデア提供、広報誌の取材・写真撮影、ポスター・ホームページのモデル、大学ホームページのモニター、制作への参加、その他大学の広報活動全般に関わってみませんか?
詳細は担当者までお気軽にお問い合わせください。

福岡教育大学の魅力を高校生・受験生をはじめ、地域の皆さまに知ってもらうために、広報・広告活動にボランティアとして参加・協力してくれる福教大生を大募集!
みなさんの応募をお待ちしています!



●応募方法等

メールで、本文に以下の3項目を記載の上、応募してください。

1. 所属・学年
2. 氏名(ふりがな)
3. 連絡先(電話番号・e-mail)

受付後、こちらから連絡します。
なお、応募者多数の場合は、選考の上、結果を連絡します。



●応募先・問い合わせ先

経営政策課 梅田
TEL: 0940-35-1205
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

Joyama 通信 vol. 32



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

福岡教育大学広報誌第32号

2015年3月26日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学
経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

編集後記

■本号の特集1では、本誌30、31号に引き続き、大学改革について紹介しました。九州の教員養成の広域拠点大学として、寺尾学長のもと、今後も全学をあげて改革に取り組みます。

特集2では、教員採用試験について紹介しました。キャリア支援センターでは、都道府県別・学校種別にグループ編成を行い、筆記試験対策だけでなく、個人面接、論作文、実技試験、集団討論、面接、適性検査など、希望に応じてきめ細やかな充実した支援を行っています。

今後も、学生のみなさんの「夢」の実現に向けて、教職員一丸となって支援いたします。

(広報編集部)

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。